

## C07b 国立天文台三鷹キャンパス常時公開の成果と課題

縣秀彦，渡部潤一ほか天文情報公開センター職員（国立天文台），鈴木淳嗣，柴田和幸ほか（東京理科大）

三鷹キャンパスでは，2000年7月より常時一般公開を開始した．年末年始をのぞく毎日，事前の申し込みなしで見学することができる．研究実験ゾーン，観測ゾーン等に並んで，公開ゾーンを新たに設けるゾーニングの考えによって，日々の研究活動に支障をきたさない範囲で公開している．実際に見学できる施設は，2002年6月現在，太陽分光写真儀室（アインシュタイン塔），大赤道儀室，第一赤道儀室の3つの登録有形文化財と展示室等である．太陽分光写真儀室（1930年完成）は（社）東京建築士会が選定した「20世紀：東京の建築遺産50選」に，東京駅，国会議事堂などと並んで選出されるなど（「建築東京」Vol.38, No.448(2002)参照），重要文化財級の建物として知られている．第一赤道儀室は，1921年に建設された構内ではもっとも古い観測用施設であり，口径20cm望遠鏡（重錘式時計駆動赤道儀）で，ゴールデンウィークと夏休み中に限って，見学者は黒点スケッチを行うことができる．65cm屈折望遠鏡が収められている大赤道儀室（1926年建設）は，国立天文台歴史館として整備され，2001年4月よりリニューアル公開（土日祝日は説明員付き）されている．展示室は現在，すばる望遠鏡模型，ALMA模型，重力波検出器模型とパネル等を展示しているが，定期的に入れ替えを行う予定である．2002年2月には，常時公開来訪者が1万人を越えた．また，これ以外に多くの団体見学を受け入れている．総合的な学習の時間の実施に伴い，今までに例のない依頼（例えば，丸1日一人の中学生の面倒をみる等）が増え，対応に苦慮している．今後の事業拡大としては野外モニュメントの設置（今年度）のほか，公開ゾーンの拡大，天文台ミュージアム構想，天文台公園構想などが議論されている．